



ドイツからの
環境・エネルギー
先端レポート

クラインガルテン ～協会活動の原点～

● 松田 雅央(まつだまさひろ)
1966年盛岡生まれ。カールスルーエ市在住ジャーナリスト。
1992年東京都立大学工学研究科大学院修了、1995年渡独。
趣味はサイクリング。自然豊かな農村地帯を走る爽快さが好き。
<http://www.umwelt.jp/>

市民菜園で心と体の健康を守る

街のアパートに住んでいるけれど庭が欲しい。そんな庶民の願いを叶えてくれるのがクラインガルテンです。「クライン」は「小さい」、「ガルテン」は「庭」を意味し市民菜園と訳されますが、一区画200～300㎡は日本の感覚からするとかなり贅沢。畑や果樹、芝生、休憩のできる小屋を配置するのが一般的で、規則の範囲内であれば小さな池や遊び場を作ったり、あるいは自然豊かな庭にするのも自由です。

クラインガルテンは19世紀半ばにライプツィヒで生まれました。ドイツにも産業革命の波が押し寄せ、工場労働者の健康被害が社会問題となった時代です。身近な所で家族が自然に親しめ、健康な野菜や果物を育てられるようシュレーパー医師がその原型を作りました。戦時中は食糧を生産する畑、その後は余暇を楽しむ庭の性格が濃くなり、最近は環境保全が強く意識されています。例えば農薬・化学肥料の使用は厳しく制限され、堆肥を作るコンポストの設置義務があり、区画の3分の1以上を敷石やコンクリートで覆うのは禁止です。クラインガルテンの利用目的は時代と共に変わってきましたが、心と体の健康を守るというシュレーパー医師の志は今も受け継がれています。



クラインガルテン協会「湖畔の草原」は2006年全国コンクールで金賞を受賞しました。コンクールでは見栄えや手入れ具合だけでなく、障害者も自由に見学できるか、外国人も受け入れられているか、環境に配慮しているかなど社会的側面も審査されます。

協会活動の基本を学ぶ教室

よくドイツ人の環境意識について質問を受けますが、実はそれを知る鍵がクラインガルテンにあります。環境を考えながら自然を楽しむ市民の姿勢が分かるからですが、もうひとつ、協会活動の原点をクラインガルテンに見ることが出来るのも理由です。

それぞれのクラインガルテンは区画の借主とその家族が共同運営する市民協会になっています。区画が100あれば100人の協会員(借主)がいて、そこから役員を選び、重要な事柄を決めるのは総会です。ドイツでは各種の市民協会が環境保全の主役として活躍しており、子供から高齢者まで参加するクラインガルテンは協会活動のやり方を学ぶ教室にもなっています。

取材協力：カールスルーエ市クラインガルテン協会「湖畔の草原」
(Kleingartenverein Seewiesen e.V.)



編集後記

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も取材や体験を通し、皆様へわかりやすく、わたしたちの暮らしを支えるテーマをお届けできるよう頑張ります。本年もどうぞよろしく願いいたします。
昨年12月にインターネット検索サイト大手ヤフー(Yahoo)より発表された、2007

年度の検索ランキング上位の1つに「地球温暖化」があったとのこと。検索ランキングは、何が人々の興味を得て、世界が何に関心を持っているのを知る一つのバロメーターではないかと思えます。今年2008年はどんな年になりますでしょうか。読者の皆様にとって健やかで素敵な1年になりますように。(よしだ)

▶ 写真家阿久沢利夫氏が撮影した富士山の写真をお届けします

富士山は、どの角度から眺めてもその姿は美しい。写真は、すそ野が最も美しく見られる忍野村から二キ口ほど南東へ向かった花の公園から撮影した極寒の富士です。



ドイチェ・アセット・マネジメント株式会社
Deutsche Asset Management
A Member of the Deutsche Bank Group



投資信託営業部
☎ 0120-442-785
(受付時間:営業日の午前9時から午後5時)
<http://www.damj.co.jp>